

時間割コード	Q3300901	開講年度	2026				
授業題目	特別支援教育の理論と実践【第3欄】					担当教員	庄司 和史
英文授業名	Theory and Practice of Special Needs Education						
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	L, S, T, A, F
講義室	東洋計器講義室(20番講義室)		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・毎回のテーマに沿って行う予習をもとに学習を進め、毎回、ワークシートまたは小レポートを作成し提出する。 ・適宜、グループ・ディスカッション等の活動を行い、考えを交流する。 ・学習したことをテーマに沿って最終レポートにまとめる						
(5)授業のキーワード	特別支援教育 発達障害 インクルーシブ教育						
(6)授業計画	第1回：ガイダンス（特別支援教育を学ぶ意義、特別支援教育の理念、インクルーシブ教育） 第2回：特別の支援が必要な子供とは（障害のある子供と障害はないが特別な教育的ニーズのある子供、子供のめぐる多様な問題と特別支援教育の役割） 第3回：特別の支援が必要な子供の心身の発達、心理的特性及び学習過程 第4回：障害のある子供の学習上または生活上の困難 第5回：特別支援教育のしくみ（制度、特別支援教育コーディネーターの役割、校内支援体制） 第6回：特別支援教育のしくみ（教育課程、自立活動、個別の教育支援計画、通級による指導） 第7回：特別の教育的ニーズの把握と支援の具体的方法 第8回：全体のまとめ・特別支援教育の課題（合理的配慮の提供、母国語や貧困の問題への組織的対応等、特別支援教育の課題）・授業アンケート						
(7)成績評価の方法	・毎回の授業の参加状況と小レポート50%、最終課題（レポート）50%で評価する。						
(8)成績評価の基準	評価観点1：障害のある子どもの心身の発達や心理的特性および学習過程について理解し、通常の学級でどのような支援が必要かについて考え、まとめることができる。評価観点2：特別支援教育の理念、しくみを知り、障害のある子供と障害のない子供と一緒に学ぶための多様な学びの場における配慮を考えることができる。以上の観点について、自己学習を通して応用して考え、まとめることができ、今後の自分なりの継続した学習目標が具体的に設定できていれば「卓越している」、特別な教育的ニーズのある子供についての理解を高め、今後の自分なりの学習目標を設定できれば「かなり上にある」、授業で扱われた内容を理解し特別支援教育についての学習を継続する目標が設定できれば「やや上にある」、授業内容を理解し今後の課題を挙げることができれば「水準にある」とする。						
(9)事前事後学習の内容	・これまでの経験を整理し、障害のある人が障害のない人と一緒に学び、一緒に生活する意義について考えること。 ・障害に関する基本的な用語、概念、定義を反復して理解すること。 この授業は、30時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	履修に関する事前指示や連絡、事前の資料配布はeALPS上で行う。 履修登録が出来ていない場合は指示や連絡を受けることができなくなるので、後期履修登録期間内に確実に行うこと。						
(11)質問,相談への対応	授業の前後、メールにて対応する。shoji@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	本授業は2日間（計8コマ分）の対面型の集中講義で、期間中の複数回の点呼と課題提出によって出席を確認する。「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充の対象とする事由」で欠席し、補充を受けた場合を含み、6コマ以上の出席がない場合は、授業の達成目標に到達することができないため、単位が認定されない。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に掲載されている方法による補充を受けるための申請を行うこと。ただし出席できないコマ数が2コマを超える場合は、授業の達成目標に到達することができないため、単位認定はできない。						
【教科書】	指定しない						
【参考書】	・中瀬浩一・井上智義「特別の教育的ニーズがある子どもの理解」樹村房、ISBN978-4-88367-292-9 1900円＋税						